

照葉樹林文化の基盤をなす自然環境(第4報)

—植物群落と植物性食品材料の研究—

南川 幸

Natural Environment Forming the Basis of 'Laurel Forest Culture' (IV)

— A Study on Phytocoenoses and Vegetable Food Materials —

Miyuki MINAMIKAWA

今年の日中友好20周年を迎えて、中国との国際交流が盛んになっている。古くから中国大陸文化の直接影響下にあったことを証する出土品が各地の古墳等より相次いで報告される今日、日本人を日本人たらしめている文化の諸特色を身につけた我々祖先の諸文化を濃く温存している中国における諸民族、殊に少数民族の諸文化をとおして、日本文化の源をさぐるようとする調査が、かなり盛んに展開され、諸研究報告や一般向けの紹介書が出版されるようになってきている。

日本文化の原型は民族の結びつきのきづなとして重要な役割を果たしている日本語の形成、水田農耕文化を基盤とした集落社会の成立、機織り(weave)や鉄器の製法とその使用を主とする生産技術の発達、そして稲作(rice crop)をめぐる新しい宗教哲学(the philosophy of religion)や世界観(a world view outlook)の創造などよりみて弥生時代にセットとして完成したことに注目をして、この時代に日本文化が形成されたものという意見が強く主張されつつある現状にある。

このように物質文化・生活文化のレベルにおける共通性が文化生態学的な観点から追求されてきたほか、この地帯には神社・儀式の面においても、様々な共通の文化が現に継承されていることが比較民族学の立場からも解明されつつある。

これら諸民族の主たる生活を営む地域は気候因子(climatic factor)や地誌(regional geography)などの主因子のもと夏雨型湿潤暖温帯のうち、特に東部アジアからヒマラヤの山麓にわたって分布する照葉樹林(laurilignosa)から一部雲南省(Yunnan province)の雲南高原地方(Yunnan plateau district)である。

これらの地域においては農作物面ではオカボ(陸稻・*Oryza sativa*)・モロコシ(蜀黍・*Sorghumbicolor*)・ヒエ(稗・稊・*Panicus crus-galli*)・粟(*Setaria italica*)・シコクビエなどの雑穀類を栽培していること、蚕のまゆから絹をつくること、コウジを用いた醸造法など食生活・衣生活など共通性が生活文化的な観点から明らかにされつつある。

このような各民族間に共通する文化を植物生態学(plant ecology)や栽培植物(cultivation plant)と民族学の成果などを総合した境界領域に照葉樹林文化論なる学説が展開されている。(中尾・1966・他)。

このような照葉樹林文化論的な考え方は生活文化面より日本文化のルーツ(Roots)を求める際のきわめて有力な手掛りの一つになり得るものと評価されてきている。このような文化論は、

これらの地域に居住する諸民族の衣食住による生活科学的・自然科学的・社会科学的調査によって得られた資料・データをもとに、諸民族の文化様式・特色などを厳密に比較分析することにより次第に明らかにされていくものであろう。

本学生活科学研究所においては1980年以来、照葉樹林地帯の諸文化、そのよってたつ自然環境面より現地に入り詳細な調査を進め、多くの調査資料を得ている。現在までに中国の云南(Yunnan)・貴州(Guizhou)、広東(Guangdong)、福建(Fujian)、浙江(Zhejiang)・安徽(Anhui)、韓国の南半域の丘陵から山地まで、済州島(Chejudo)などの照葉樹林下の地域にわたって概況調査を進めてきた。本研究のうち自然環境、特に農業をはじめ、植物的自然については、一気に云南～貴州地方の熱帯高原地方について本質を把握することが困難であることより、日本列島の西南地方から続く、韓国済州島(Chejudo)、水原(Suwon)付近までの朝鮮半島などの日華区系(Sino-Japanese Region)、さらに中国の日華区系に属する長江(揚子江)の以南地方の浙江省沿岸地帯から安徽省、広東省から江西省などの沿岸地方から山地地帯にいたる間の植生(Vegetation)及び植物相(Flora)について逐次現地調査(Field work)を進めてきた。

また、植物性食品として広く用いられている天然生のキノコ類についても、可能なかぎり採取、現地乾燥して調査を実施している。その一部を掲げた。

今回は安徽省の屯溪市に基地をおき、丘陵部から山地の相溪～潜口付近にいたる間について谷部に残された自然植生の一部、遷移のよく進行した代償植生、さらに典型的な広く分布する落葉広葉樹よりなる安定林についても求め、植物社会学的調査を行った。また、これにつづく江西省の沙溪から邦坊にいたる同植生帯の植物相調査を実施した。

日華区系の照葉樹林帯(Laurel forest zone)から同地方の諸民族の生活圏となっている冷温帯(Cool temperate zone)の落葉広葉樹林帯(Deciduous broad-leaved forest)の下部にいたる間の森林植生や集落周縁林に生育している樹木の主なものは次の通りである。

I. 常緑広葉樹(Evergreen broad-leaved tree)の高木

壳斗科(Fagaceae・ブナ科) 栎類・アラカシ(青岡栎・*Quercus glauca*)・変種(小叶青岡・*Q. glauca* f. *gracilis*) アカガシ(*Q. acuta*)・イチイガシ(赤皮 青岡・*Q. Gilva* (浙江省に近い安徽省域)・クロガシ(細葉青岡・青栲・*Q. myrsinaefolia*)・蛮青岡(*Q. oxyodon* 浙江省に近い安徽省域)・大葉青岡(大葉栲・*Q. senseniana*・長江以西の地方)・云山青栲(云山栲・*Q. nubium*・ツブラジイ(柯樹・*Q. cuspidata*)・シリブカガシ(石栲・*Q. sieboldiana*).

クスノキ科(Lauraceae)・クスノキ(樟・豫樟・*Cinnamomum Camphora*)・シナクスモドキ(*Cryptocarya chinensis*)・ヤブニッケイ(*Cinnamomum insularimontanum*)・タブノキ(ダマ・*Persea Thunbergii*)・アオモジ(*Litsea cubeda*)・シロダモ(*Neditsea serices*).

ツバキ科(Theaceae)のサカキ(*Cleyera japonica*)・小葉種(*C. japonica* var. *parvifolia*)・モツコク(厚皮香・*Ternstroemia gymnanthera*)

ヤマモガシ科(Proteaceae)のヤマモガシ(*Helicia cochinchinensis*).

モチノキ科(Aquifoliaceae)のナナミノキ(*Ilex chinensis*), クロガネモチ(*I. rotunda*).

ヤマモモ科(Myricaceae)のヤマモモ(揚梅・*Myrica rubra*)

II. 落葉広葉樹(Deciduous broad-leaved tree)の高木

壳斗科(Fagaceae・ブナ科) 水青岡(*Fagus longipetiolata*)・米心水青岡(*Fagus engleriana*)・栓皮櫟(アベマキ・*Q. variabilis*)・木斛(カシワ・*Q. dentata*)・櫟(クヌギ・*Q. acutissima*)・榲櫟(ナラガシワ・*Q. aliena*), 黄山栎(*Q. stewardii*)・榲櫟(*Q. aliena*).

カバノキ科(Betulaceae) アサダ(*Ostrya japonica*)・サワシバ(*Carpinus cordata*)・イヌシデ

(*C. Tschonoskii*). アカシデ (*C. laxiflora*), ユズリ科 (*Daphniphyllaceae*) の交譲木 (*Daphniphyllum macropodum*), クルミ科 (*Juglandaceae*) ノグルミ (化香樹・必栗香・化木香・ *Platycarya strobilaceae*).

マツ科 (*Pinaceae*) 黄山松 (*Pinus taiwanensis*) の常緑針葉樹 (Evergreen coniferous tree)

Ⅲ. 草本植物 (herb) イネ科 (*Gramineae*) 芒 (ススキ・ *Miscanthus sinensis*) ・ トダシバ (*Arundinella hirta*) ・ シバ (*Zoisia japonica*) ・ ヒメノガリヤス (*Calamagrostis hakonensis*) ・ アワガエリ (*Phleum paniculatum*) ・ ヌカボ (*Agrostis exarata* var. *Nukabo*) ・ キツネガヤ (*Bromus remotiflorus*) ・ カモジグサ (*Agropyron tsukushiense*) ・ コウヤザサ (*Brachylytrum erectum* var. *japonicum*) ・ トボシガラ (*Festuca parvigluma*) ・ ササクサ (*Lophatherum gracile*) ・ ミチシバ (*Melica Onoei*) ・ カゼクサ (*Eragrostis ferruginea*) ・ ネズミノオ (*Sporobolus indicus* var. *purpureo-suffusus*).

カヤツリグサ科 (*Cyperaceae*) ・ ヤブスゲ (*Carex Rochebruni*) ・ ヒカゲスゲ (*C. humilis*) ・ アオスゲ (*C. breviculmis*) ・ シラスゲ (*C. japonica*).

集落近くの山林の多くは野畑地を除いて、これらの落葉広葉樹が混生し、遷移の進行した部位にあっては常緑広葉樹が多く組成するようになっており、上層の樹木群が密生した常緑広葉樹林にあっては光葉石楠 (*Photinia glabra* ・ ソバノキ), 中华石楠 (*P. crassifolia*), *Amelanchier asiatica* var. *sinica*, *Illicium anisatum*, *Kadsura japonica*, *Viburnum erosum*, *V. dilatatum*, *Callicarpa dichotoma*, *C. japonica*, *Ehretia ovalifolia*, *E. Dicksonii*, *Ligustrum japonicum* などが点在し、樹幹には常春藤 (*Parthenocissus tricuspidata*) がはい上っている。また、林床にはカヤツリグサ科の *Carex* (スゲ属) の数種が、やや腐植土に富んだ部位に生育している。なほ林床型 (Forest floor type) よりみて、丘陵台地の日背、または隣接森林の被陰立地に位置した林地の麓から緩斜面の中腹にかけての表層土に富む立地では壳斗科の栎類・厚皮香などが点在している。またやや湿性立地にあってはクスノキ科の常緑樹が優占し、やや乾燥立地では青岡栎が目立っている。

次に疎林やイネ科草本種の優占群落にあっては壳斗科の木斛・水青岡・栓皮櫟・黄山栎が上層に点在したイネ科草本群落となっている。

さらに集落の周縁や山麓にわずかに苦竹 (*Phyllostachys bambusoides*) ・ 或いは淡竹 (*P. nigra* var. *Henonis*) の竹林がみられる。これらの林内には当環境下の潜在自然植生 (Potential natural vegetation) を形成する種とみられる樹種がかなり把握された。

これらの植生の数タイプについて群落組成表に別に掲げる。

天然生キノコ類

調査地域の疎中小樹林が点在した草地から落葉広葉樹林、常緑広葉樹林など集落周辺からやや奥地林に発生している天然生のキノコ類について採取し、同定して写真記録、或いは発生の少ない種や希少種については乾燥処理し、もちかえり整理を行った。そのうち整理のついて種について掲げる。

1. 洁丽香菇 (別名: 豹皮香菇・豹皮菇・白香菇・鱗香菇) *Lentinus lepidens* Fr. マツオウジ。
2. 美味牛肝菌 (別名: 白牛肝菌・大脚菇・白牛头, 黄莽) *Boletus edulis* Bull. et Fr. ヤマドリタケ。
3. 竹荪 (別名: 長裙竹荪・竹筊・面紗菌・冈紗菌・竹菇娘・仙人笠・臭角菌) *Dictyophora indusiata* (Vent. et Pers. Fischer) キヌガサタケ。

Table 2. Table showing the floristic composition of the main community of Deciduous broad-leaved forest

Tree 1 (Height m/Total coverage %)	13.0 / 90	12.5 / 85	14.0 / 95	11.5 / 85	13.5 / 75	14.0 / 90	13.5 / 85
Tree 2 (m/%)	4.0 / 5	3.5 / 20	4.5 / 5	3.5 / 15	3.5 / 15	4.5 / 30	4.0 / 20
Shrub (m/%)	2.0 / 5	2.0 / 45	2.5 / 5	2.0 / 20	2.0 / 15	2.5 / 45	2.0 / 55
Herb (m/%)	0.4 / 10	0.3 / 10	0.25 / 35	0.3 / 10	0.25 / 15	0.4 / 10	0.3 / 10
Moss (%)							
Differential of Deciduous broad-leaved forest							
<i>Fagus longipetiolata</i>	T1 T2	2·2 ·	·	3·3 +	1·1 +	2·3 +	· ·
<i>Quercus dentata</i>	T1 T2	1·1 ·	·	1·1 ·	·	·	2·3 1·1
<i>Carpinus laxiflora</i>	T1 T2	1·1 ·	·	1·1 ·	2·3 1·1	1·1 +	· ·
<i>C. Tschonoskii</i>	T1 T2	1·1 +	2·3 1·1	1·1 +	1·1 +	·	1·2 1·2
<i>Quercus stewardii</i>	T1 T2	+ +	+ ·	· ·	+ +	+ +	1·2 1·1
Character spp. and differential spp. of Sino-Japanese Region							
<i>Quercus glauca</i>	T2 S	· ·	1·2 1·1	+ 1·2	+ 1·2	1·1 1·1	1·2 1·1
<i>Ligustrum japonicum</i>	S	+	+	+	+	+	+
<i>Vaccinium bracteatum</i>	S	·	+	+	·	+	·
<i>Eurya japonica</i>	S	+	+	+	+	·	+
<i>Ilex anisatum</i>	S	+	+	·	+	+	·
<i>Sorbus alnifolia</i>	S	·	·	+	·	·	+
<i>Rosa Wichuraiana</i>	H	+	+	·	+	·	+
<i>Deutzia Crenata</i>	S	+	·	+	+	+	·
<i>Corylus heterophylla</i>	T2	·	·	+	+	+	·
<i>Vaccinium Oldramii</i>	H	·	+	·	+	·	+
<i>Kalopanax pictus</i>	T1	·	·	+	·	+	+
<i>Elaeagnus glabra</i>	H	+	+	+	·	+	+
<i>Hovenia tomentella</i>	T2	+	+	·	+	·	·
<i>Euscaphis japonica</i>	S	·	·	·	+	+	+
<i>Rhus trichocarpa</i>	S	+	+	·	+	·	+
<i>Carex breviculmis</i>	H	+	+	1·2	·	+	+
<i>Miscanthus sinensis</i>	H	+	·	·	+	+	·
<i>Carex pisiformis</i>	H	+	+	+	+	·	+

4. 喇叭菌 (別名: 灰号角・灰喇叭菌・酸碓窩・咲呐茹) *Craterellus cornucopioides* (L. ex Fr.) クロラッパタケ
5. 美味側耳 (別名: 紫孢側耳・美味北風菌・白平茹・凍菌・美味平茹・灰樹窩) *Pleurotus sapidus* (Schulz. apud. kal-chbr.) Sacc. タモギタケ.
6. 多脂鱗傘 (別名: 黄傘・肥鱗耳・黄絲菌・柳樹菌) *Pholiota adiposa* (Fr.) Quél. ヌメリスギタケ.
7. 黒乳茹 (別名: 尖頂暗褐乳茹・奶漿菌・黒奶漿菌) *Lactarius lignyotus* Fr. チチタケの一種.
8. 藍黄紅茹 (別名: 花蓋茹・花青頭菌・花菌) *Russula cyanoxantha* (Schaeff. ex Schw.) Fr.
9. 多汁乳茹 (別名: 谷熟菌・紅奶漿菌・奶茹・奶汁茹) *Lactarius volemus* Fr.
10. 藍黄紅茹 (別名: 花蓋茹・花青頭菌・花菌) *Russula cyanoxantha* (Schaeff. ex Schw.) Fr.
11. 黄白紅茹 (別名: 密黄茹・黄菌) *Russula ochroleuca* (Pers.) Fr.
12. 全緑紅茹 (別名: 変色紅茹・変色茹・紅菌・紅絲菌) *Russula integra* (L.) Fr. ヨヘイジ
13. 白紅茹 (別名: 小白茹・石灰菌) *Russula albida* Peck.
14. 褐環乳牛肝菌 (別名: 褐環粘蓋牛肝菌・褐黄牛肝菌・土色牛肝菌) *Suillus luteus* (L. ex Fr.) Gray.
15. 金色条孢牛肝菌 (別名: 毛鱗小牛肝菌・粉貝手) *Boletellus chrysenteroides* Snell. キバナイグチの一種.
16. 光孢黄枝瑚菌 (別名: 光孢黄丛枝・黄刷把菌) *Romaria obtusissima* (Peck) Corner ホウキタケの一種.
17. 毛釘茹 (別名: 喇叭菌・酸碓窩) *Gomphus floccosus* (Schw.) Sing. ウスタケ・キチチタケ
18. 乳牛肝菌 (粘蓋牛肝菌・莽面菌・松樹菌・麻木菌・滑菌) *Suillus bovinus* (L. ex Fr.) O. Kuntze アミタケ (一名 スドオシ).
19. 点柄乳牛肝菌 (別名: 点柄粘蓋牛肝菌・栗壳牛肝菌・顆粒柄粘蓋牛肝菌) *Suillus granulatus* (L. ex Fr.) O. Kuntze. チチアワタケ
20. 壳状紅茹 (別名: 淡緑茹・緑頭茹・黄班緑茹) *Russula crustosa* Peck.

摘 要

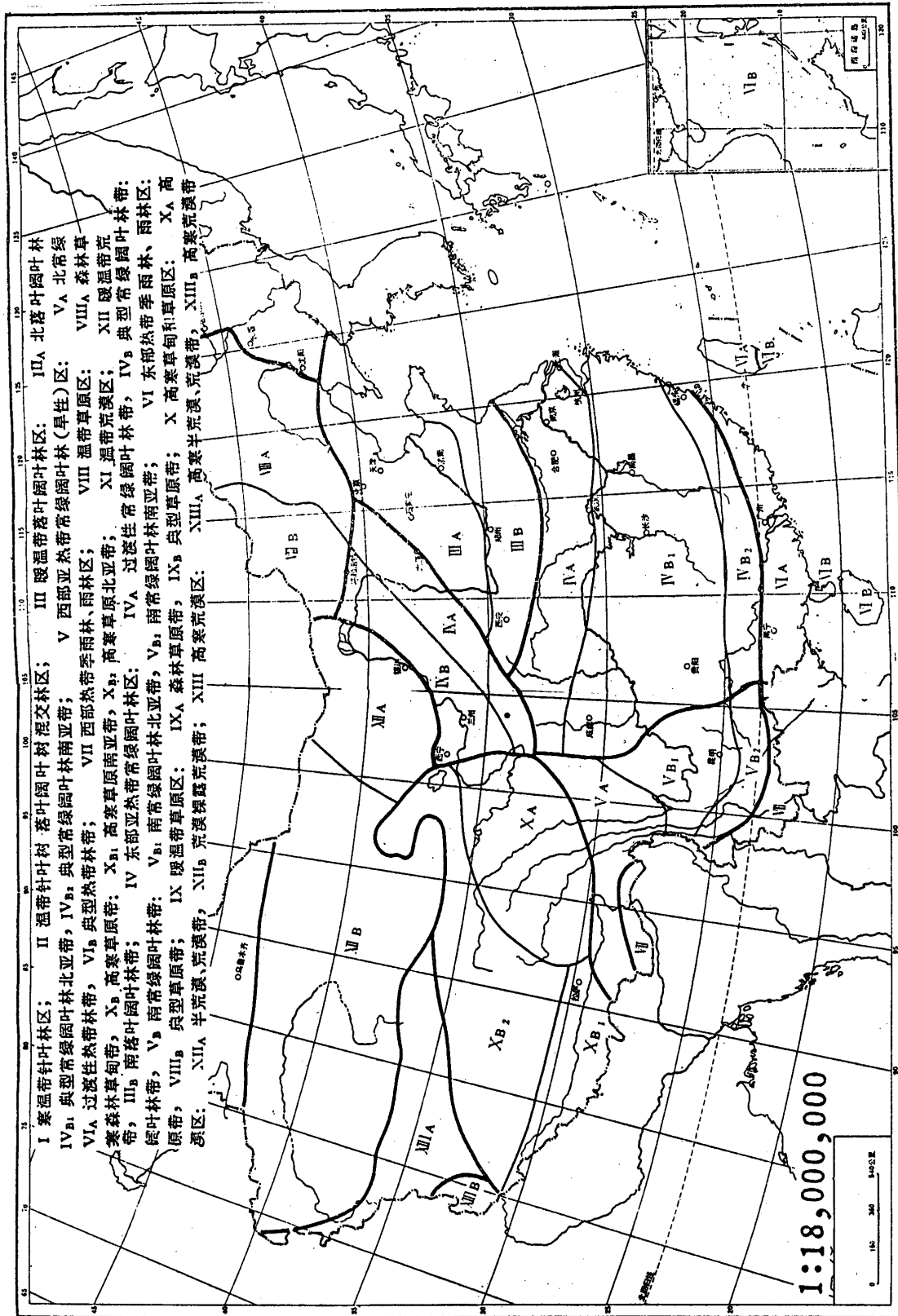
本学は1980年以来、照葉樹林文化を今なほ色濃くとどめている中国の雲南(Yunnan)・貴州・四川の各省の諸少数民族地域及び、照葉樹林地帯にある江西・福建・浙江・安徽などの地域の食文化・諸習慣などを中心に調査が進められてきた。

我々は日本列島の西南日本から韓半島をへて中国の揚子江(長江)の江南地方・雲南高地・東南アジア北部の山地・アッサム地方に広がる照葉樹林帯の中核をなしている諸民族の自然環境の基盤となっている緑被環境を明らかにするため、平野・丘陵から江南地方の山地に成立する植物群落を調査し、きびしい大陸性気候下での諸民族の生活舞台の一隅に温存された気候風土下での自然植生、代償植生について明らかにすべく現地調査を実施し、解析を試みた。

今回は1990年度に実施した日華区系(Sino-Japanese Region)の照葉樹林帯から冷温帯の落葉広葉樹林帯にいたる間の自然植生及び生活域となっている代償植生地域の植生について約15日間にわたり調査を実施した。

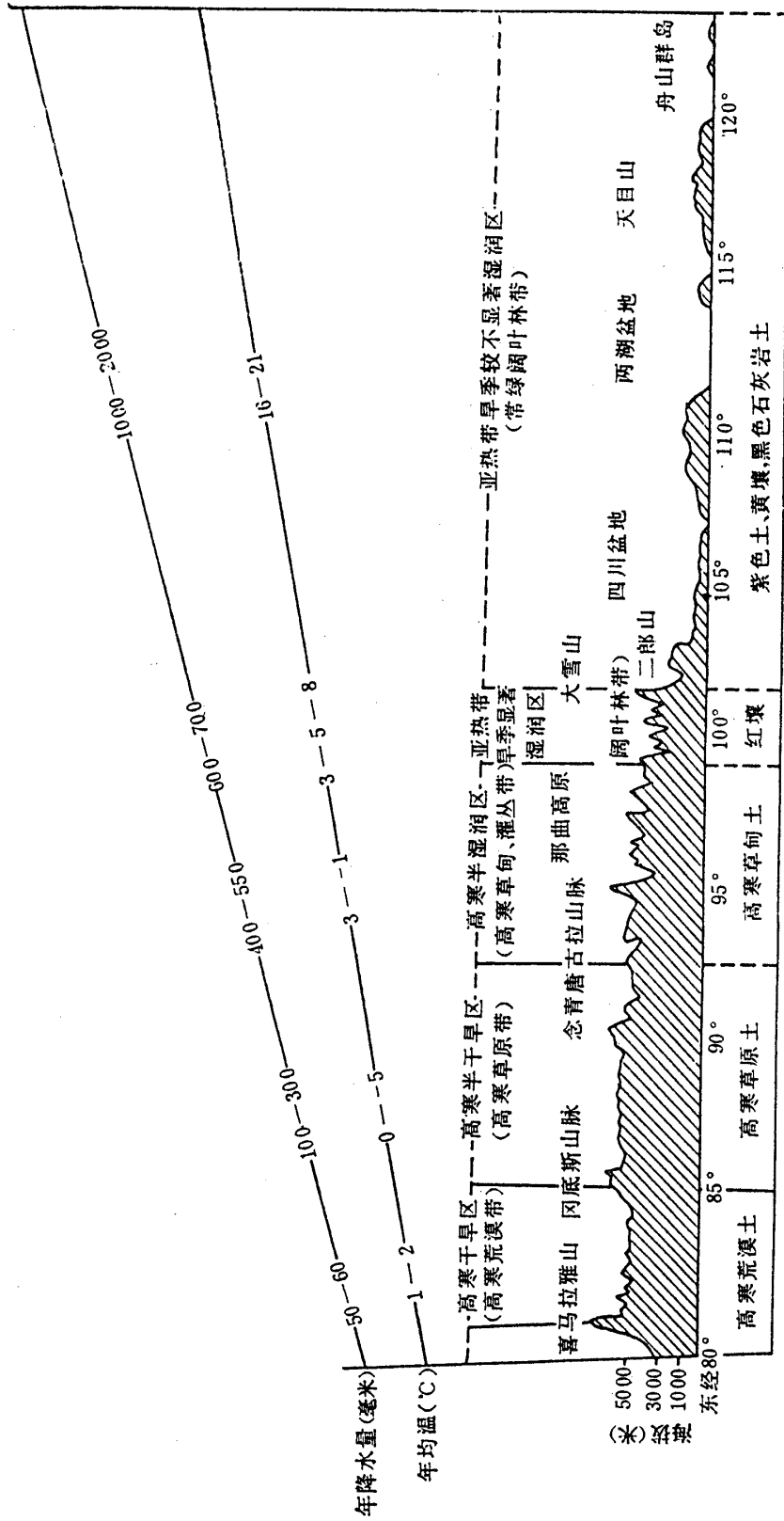
また、中国においてはキノコ類をきわめて多く食品材料としていることより、特に天然のキノコ類について調査を行ないその概要を整理し一部を掲げた。

植生を概観すると、丘陵部にはブナ科・クスノキ科などを優占種とした常緑広葉樹林、山地

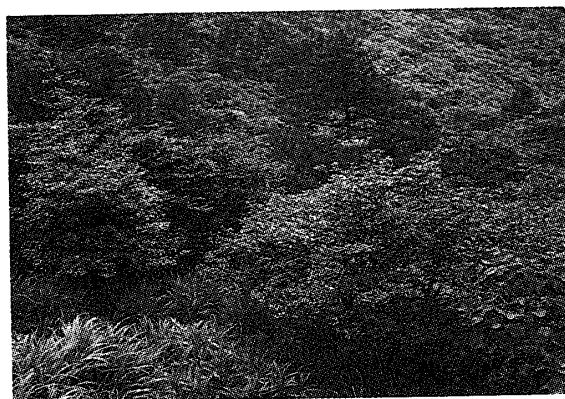
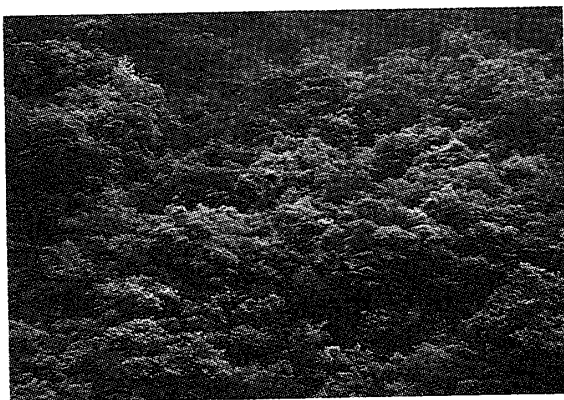


刘卓澄提供

中国植被分区图



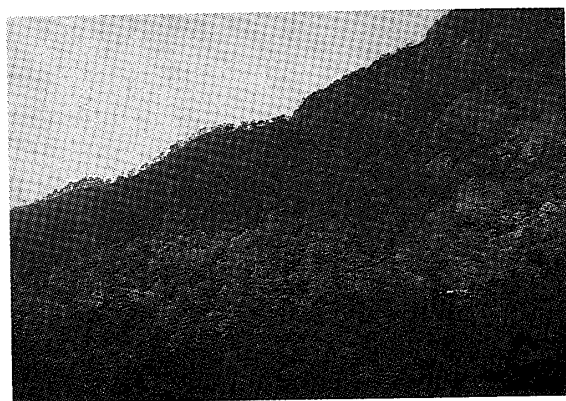
中国亚热带(约北纬30°)植被水平分布的经向变化及其与气温、雨量、土壤的关系(示意图) 江先甫提供



丘陵谷地形部の落葉広葉樹林の相観
Physiognomy of evergreen broad-leaved forest at hills and their valleys.

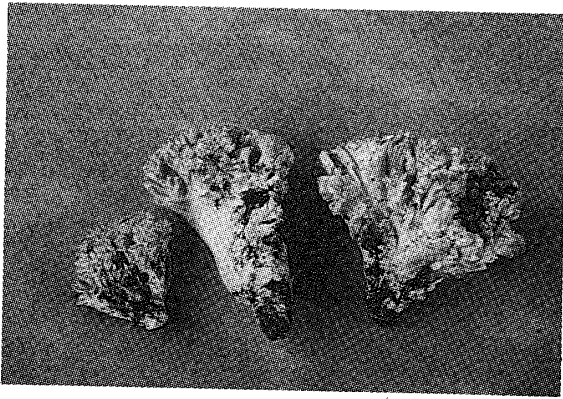


遷移初期林の相観
Physiognomy of forests under earlier stage of succession.

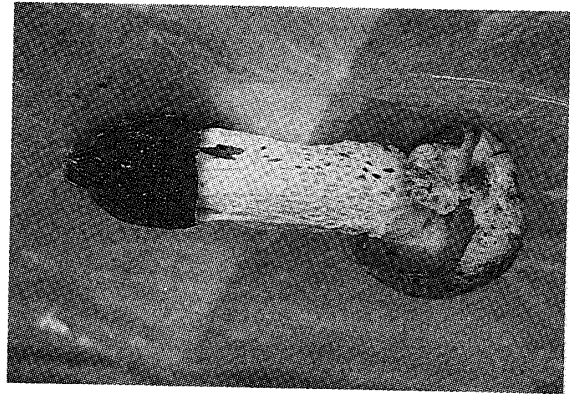


黄山松などの常緑針葉樹林の相観
Physiognomy evergreen coniferous forests, including Pinus taiwanensis and on.

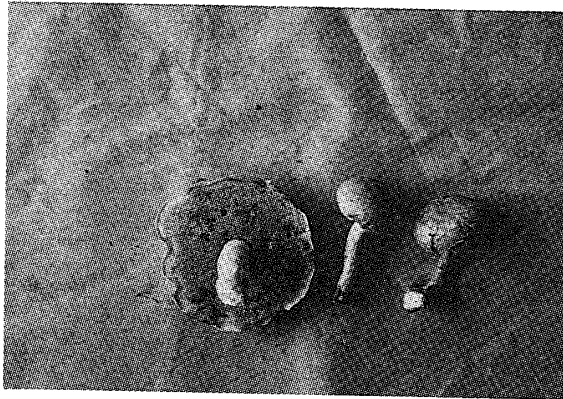
Shapes of natural edible Fungus kinds. 天然食用キノコ類の形態



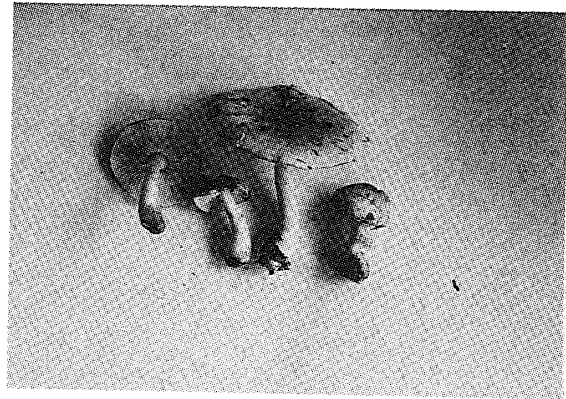
Ramaria obtusissima ホウキタケの一種



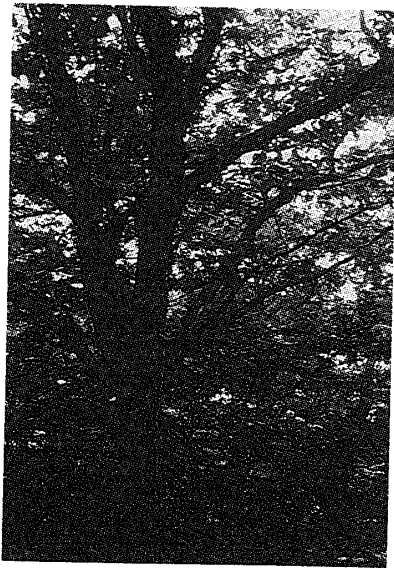
Dictyophora indusiata キヌガサタケ



Suillus bovinus アシタケ



Lactarius lignyotus キチチタケ



丘陵谷地形部の落葉広葉樹林の相観

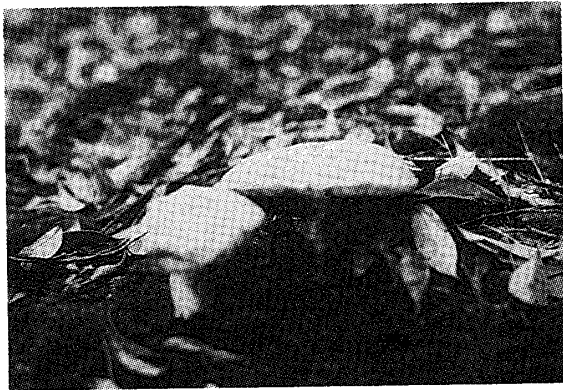
Physiognomy of evergreen broad-leaved forest at hills and thier valleys.



黄山松などの常緑針葉樹林の相観

Physiognomy of evergreen coniferous forests, including *Pinus taiwanensis* and so on.

Life of natural edible Fungus kinds. 天然食用キノコ類の形態



Suillus granulatus チチアワタケの一種



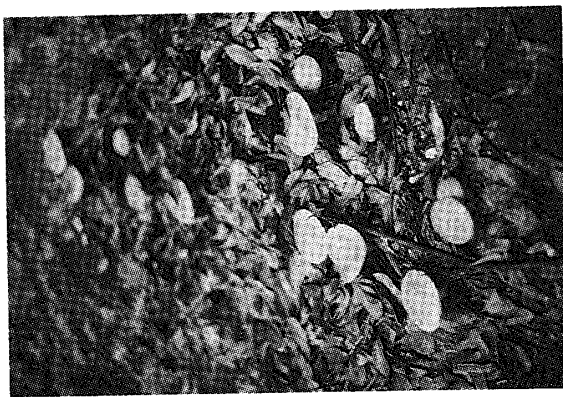
Suillus luteus スメリイグチ



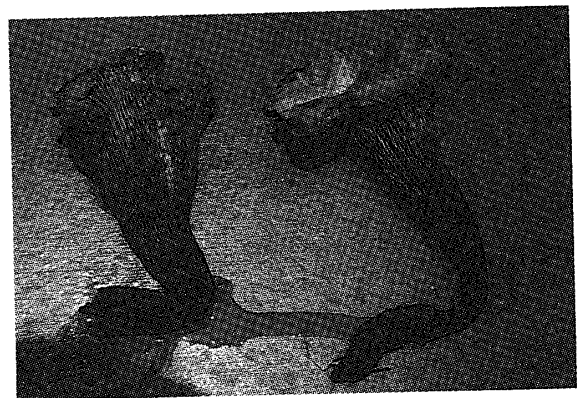
Lentinus lepideus マツオウジ



Boletellus chrysenteroides キクバナイグチ



Russula integra ヨヘイジ



Gomphus floccosus ウスタケ

部になるとブナ科の落葉広葉樹林, 岩角地などの地形域部になるとマツ科などの常緑針葉樹林となっている。

なほ集落近くの山林は種々の落葉広葉樹林に常緑針葉樹が混生し, 下層にイネ科の草本が優占した林, 或いは草原となっている。

文 献

- 1) 陶未岱・黄 枢・仲天恽・対学恩・郑万鈞・杨衛普: 中国树木志, I ~ II 続, 中国林业出版社, 1985.
- 2) 賀士元・伊祖棠, 北京植物志: 上下巻, 北京出版社, 1898.
- 3) 刘卓澄・他: 中国自然地理, 上巻, 植物地理, 科学出版社, 1963.
- 4) 中国科学院地理研究所編輯: 自然地理, 19, 科学出版社, 1987.
- 5) 中国科学院中国自然地理編輯: 植物論, 科学出版社, 1981.
- 6) 南川 幸: 照葉樹林文化の基盤をなす自然環境 I, II, III, 名古屋女子大学紀要, 36, 37, 家政・自然, 1990, 1991.
- 7) 南川 幸: 中部地方に発達する照葉樹林帯の植生, 日本生物地理学会報, 44, 1989.
- 8) 南川 幸: 中国における照葉樹林の分布と主要構成樹木類, 森林文化報, 1. 1990. 2. 1991.
- 9) 江先甫, 南川 幸: 中国生被子植物門以营养対为主的分科検索, 北京師範大学生物系志, 1990.
- 10) 南川 幸: 中国照葉樹林の主構成樹種と生活材, 海外資源談話会誌38, 1991. 39, 1992.

SUMMARY

1. In the Chinese Laurel forest zone, including provinces of Yunnan, Guizhou, Szuchnan, Jiangxi, Fujian, Zhejiang and Anhui (most of them lies south of the Yangtze-River and even now they keep the Laurel forest culture), from 1980 our university group have been doing researchs into their food-culture and habit.
2. To make clear the phytocoenoses from the Japanese west-south area, the Korean peninsula, the south area of the Chinese Yangtze-River, the Yunnan high land, mountain area of the southern East-South Asia, the Assam region which is the base of many tribe's natural environment, we did the research on vegetation composing from plains, hills to mountains in those area. And also analysed natural vegetaion on the area under the continental climate which have made their life habitat.
3. This time, FY1992, 15days were spent for the research on the natural vegetation from Laurel forest zone in the Sino-Japanese zone to deciduous broad-Laurel forest, and also on the vegetation in the Substitutional area.
4. On hills, Evergreen broad-Laurel forests were found, whose dominant spieces are Fagaceae and Lauranceae. And mountains, Fagaceae's deciduous broad-leaved forests, specially at rock parts evergreen coniferous forests including Pinaceae.
5. In China, fungus kinds are frequently used as food materials, that is why we did the research on natural fungus kinds and the collection on natural edible fungus kinds.
6. In mountaious forests close to villages, many type's deciduous broad-leaved forests and evergreen coniferous are mixed. And thier lower level are composed of bushes whose dominant species Gramineae, or grassland.